

みえの輝く女子プロジェクト事業【三重県】

個別事業費	3,752 千円
交付金額	1,665 千円

地域の実情と課題

- ・三重県は、フルタイム労働者の賃金、共働き家庭の家事育児時間の男女間格差が全国最大級に大きい状況です。
- ・このようなジェンダーギャップの解消に向けて、女性活躍の取組を進めていく必要があります。

目的・目標

【事業目標】

- ①行動計画等を策定する、常時雇用労働者数100人以下の団体数
目標:426団体(R5年度) 実績:426団体
- ②三重県会議の会員数
目標:600団体 実績:603団体

事業の特徴

- (1)女性が働きやすい職場づくりを目的に、様々な業種、地域で働く女性が集まり、意見交換等を通じて「こうすればもっと働きやすい、住みやすい」の検討提案を行うグループワーク「みえ働くサスティナラボ」を実施します。
- (2)「みえ働くサスティナラボ」で検討した県への提言を発表するとともに、県内の優良取組事例の発表、トップ及び男性の意識改革を促す基調講演を行う成果発表会「ジェンダーギャップ解消フォーラム」を開催します。
- (3)女性活躍推進アドバイザーを企業に派遣し、課題の洗い出しや課題解決に向けた助言等を行う行動計画の策定支援を行います。

連携団体

【女性の大活躍推進三重県会議】

(企画委員会)

三重県会議会員企業7社に所属する管理職等

(連絡会議)

公益財団法人三重県産業支援センター／日本労働組合総合連合会三重県連合会／三重県漁業協同組合連合会／三重県経営者協会／三重県商工会議所連合会／三重県男女共同参画センターフレんてみえ／三重県中小企業家同友会／三重県中小企業団体中央会／三重県農業協同組合中央会／三重大学／三重労働局／三重県

事業の効果

- (1)「みえ働くサスティナラボ」での意見交換・提言を通じて、働く女性たちの意見を反映した女性活躍推進施策の形成ができた。また、様々な業種で働く参加者たちが、新たな視点や気づきを得て、モチベーションの向上につながった。
- (2)「ジェンダーギャップ解消フォーラム」での講演、優良取組事例の発表等を通じて、企業トップ層などへの意識啓発ができた。
- (3)県内企業への女性活躍推進アドバイザーの派遣、取組事例の発表により、企業における取組の推進に向けた啓発ができた。

今後の課題

- ・「みえ働くサスティナラボ」における提言として、女性活躍推進等に向けては「企業トップのコミットメント」、「休暇制度等の利用しやすい雰囲気」「身近で共感できる女性ロールモデル」「性別による役割や業務分担の解消」の必要である旨の提言があった。
- ・これらの提言をふまえつつ、今後においても、女性活躍の推進に向けて、企業トップ層に対する意識啓発、女性が活躍できる制度や雰囲気等の環境づくり、身近なロールモデルの育成を行っていく必要がある。

事業の概要

「こうすればもっと働きやすい、住みやすい」を考える働く女性のワークショップ・成果発表

- ・性別に関わらず、誰もが家庭でも仕事でも活躍できる「令和モデル」社会の実現に向け、県内で働く若手・中堅女性が「こうすればもっと働きやすくなる」を考える全3回のワークショップ「みえ働くサステナラボ」を開催しました。(15社28名参加)
- ・参加者からは、「仕事と家庭の両立支援の制度はあるが、使いにくい雰囲気がある」、「企業風土が変わるかどうかはトップ次第」といった意見が出され、最終的に13の提言にまとめられ、県の施策として、提言内容を反映した事業を実施予定です。



女性活躍推進専門アドバイザーの派遣、女性活躍推進の機運醸成



- ・県内の常時雇用労働者数100人以下の企業・団体を対象に、女性活躍推進専門アドバイザーを派遣し、事業主行動計画の策定支援を実施しました。

支援社数 7社

- ・女性の活躍推進の機運を醸成し、女性が活躍できる環境整備を進めることを目的とした、民間企業・団体のネットワーク組織である、「女性の活躍推進三重県会議」への加入の働きかけを行いました。

会員団体数607件(令和6年3月末時点)